

# 職能科通信 47号

2020年 9月 発

職能科通信

検索

〒243-0121  
神奈川県厚木市七沢 516  
神奈川リハビリテーション病院  
職能科  
TEL&FAX 046-249-2571

## 【コロナ禍での外来患者さんへの訓練 ～高次脳障がいの方への支援】

厚生労働省は、新型コロナウイルス感染対策への対応の中で、社会福祉関係、生活を支えるための支援として給付金・支援金・助成金等の事務連絡通知を出しています。就労系障害福祉サービスにおいても、各サービス別に柔軟な取り扱いに関する事務連絡が通知されています。神奈川県においては、緊急事態宣言解除後、感染防止・クラスター対策として7月17日に「神奈川警戒アラート」が発令されました。

このような状況の中、当院では、通院リハビリ（外来訓練）を4月7日からの中止を経て、8月3日より一定の感染対策を実施した上で再開をいたしました。当科では、訓練エリアを入院・外来患者で分け、通院リハビリ（外来訓練）を10:20～15:15で実施しております。「新たな生活様式」が求められる中、障害をお持ちの方におかれましては、通院・通所及び就業先の受け入れ環境の変化により、健康管理や生活リズムに困難な状況があると思われま。

4～8月の5か月間で、当科利用の高次脳機能障がいの外来患者さんの中で、電話やWEB会議システムで相談支援を行った37名の状況についてご報告させていただきます。

職能科以外に通所先が無い方は約6割でした。その中でご本人が意識して生活・健康面で取り組んでいる事がある方は7割おり、自己管理を意識し生活されている状況が伺えました。単身者の方では、半数の方が取組まれている日課がない状況でした。ご家族の困り感については、「精神状態が不安定」「飲酒・喫煙が再開」などの声が聞かれ、コロナ禍での要因が伺えました。

このようなことを踏まえ、今後の支援では、『単身者の在宅生活での日課づくり』、家族同居の場合では『本人・家族双方への支援』のプログラムの充実が必要です。

37名の状況		職能科以外の 日中通所先		本人が取組んで いる日課が有	本人の困り 感が有る	家族が本人の事 で困っている
家族と 同居	27	有	12	8	4	3
		無	15	11	3	3
単身者	10	有	3	1	1	
		無	7	4	5	

この5か月間での当科の取り組みを紙面の後半で紹介させていただきます。

また、神奈川県の高次脳機能障害支援拠点機関である当センターホームページにて、自宅でできるリハビリテーション「高次脳機能障害のある方の日中活動について(新型コロナウイルス感染防止に伴う外出制限等への対応)」を提案しております。併せてご参照ください。(進藤育美)



## 【高次脳機能障がい者向け在宅訓練について】

新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、神奈川リハビリテーション病院の外来訓練は中止となり、地域の障害福祉・介護保険サービスも通所利用に制限がかかる状況となりました。職能科では、高次脳機能障がいの外来患者さんに対する新規就労・復職支援を継続するために、一部の患者さんを対象に在宅訓練を実施しています。

実施方法は、Web上のビデオ通話機能や電話を活用、開始・終了のミーティングを行い、体調の確認、その日の作業指示・確認・報告を実施しています。その日の作業報告は口頭報告の他に、作業報告書に記載してもらい、メールに添付して送ってもらいます。

実施する上で気を配らなければならないことは、高次脳機能障がい患者さんの特性に合わせた実施方法を丁寧に準備することです。とりわけ、作業を時間通りに終了して別の作業に切り替えることが難しい方や、課題を決められた時間以上にやり過ぎてしまう方については、事前に休憩をスケジュールに組み込むことや、休憩がとれたことに対して評価をすることを事前に伝達するなど、入念に準備してスタートします。また、脳疲労に対する配慮も必要となるため、同居する家族に家庭での様子を確認するなどして過負荷になっていないかを適宜モニタリングしています。

Web上のビデオ通話機能等の機能向上によって、在宅勤務の利便性が飛躍的に高まっていますが、一方でWeb会議等での「独特の疲れ」についても指摘されるようになってきました。高次脳機能障がいの方がビデオ通話やWeb会議を実施すると、いつも以上に疲労すること（特に脳疲労）が想定されます。適度な設定時間や内容について在宅訓練を実践していく中で、さらに調査・研究が必要になると思われます。（小林國明）

## 【WEB面談を活用した在宅生活での日課・役割作りの支援】

緊急事態宣言で様々な活動が自粛している中、高次脳機能障がいの患者さんも同様に「通院・通所先が利用できなくなってしまった。」「自宅で何をすればいいのかわからない。」といった声が聞かれ環境の変化に戸惑う方も多かったと思われます。

そこで自宅で行える課題を模索していく中、日課・役割作りを通して生活を充実させていく支援を試みました。方法は、現在の生活状況を確認し1週間のスケジュールを作成しました。その後、家事リスト（名もなき家事150個）の中から家族と話し合い出来そうな家事動作をピックアップし1週間のスケジュールに時間、曜日別に割り振りを行い、「〇曜日は資源ゴミの日だから前日に分別を行っておく」など、スケジュールに沿って能動的に日課を行うように設定し、WEB面談で遂行状況を報告・確認していくことを行いました。

在宅生活でのスケジュールを報告・計画して行う事は生活スタイルや価値観をシフトさせていく必要があるので全てが上手く出来る訳ではありませんが、本人、家族と支援者が課題を一つずつ行うために情報交換を行っていく事がとても重要であると再確認しました。環境の変化に戸惑う状態であったとしても、ほんの少しの価値観のシフトと動機付けを行う事で生活を充実させることのきっかけ作りとなったと思われます。今後も休職期間中の生活について患者様・ご家族と充実した生活を送れるように支援していきたいと考えております。（作業療法士 露木拓将）

